

神奈川県における重粒子線治療施設の整備について

1 整備目的

従来の放射線治療では効果が上がりにくいがんへの治療効果が期待され、かつ副作用が少ないとされる最先端の治療装置を導入することで、都道府県がん診療連携拠点病院として、県民に質の高いがん医療を提供するため、平成 27 年中の治療開始を目指し神奈川県立がんセンター内に整備を進めている。

2 施設概要

- (1) 建築面積 約 3,000 m²、延床面積 約 6,500 m²
- (2) 階 数 地下 2 階、地上 1 階建て（地下 2 階で新がんセンター病院棟と連結）
- (3) 構 造 RC 造（鉄筋コンクリート造）
- (4) 年間治療患者数 880 人（年間 1,000 人での運用が可能な規模で施設とする）

3 本施設の特徴

(1) 外来通院型

県内だけでなく東京都南部及び西部からの通院が可能な位置に設置するため、全身状態が悪くない患者については外来で治療を行う“外来通院型”の重粒子線治療装置を目指す。

(2) 病院併設型

新がんセンター病院棟と一体型の施設とすることで、医療機器等の設備の共有による二重投資の回避というメリットが生じるとともに、総合的な放射線治療の充実が図られ、患者に対して安心して重粒子線治療を受けられる環境の提供が可能となる。

(3) 治療と研究・研修の一体的活用施設

本施設が「治療・研究・人材育成の一体的活用を行う施設」を目指す施設であることから、外部からの研究者や研修生を受け入れる「研究研修室」を設置する。

4 整備スケジュール

重粒子線治療施設は、平成 23・24 年度に建屋の実施設計を行い、平成 24 年度以降に建設工事を行う。また、平成 23 年度から装置の製造に着手し、平成 27 年 12 月の治療開始を目指す。

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
重粒子 線治療 施設	建 屋	基本設計	実施設計	入札	建設工事		治療開始
	装 置		入札	設計・製造			
新がんセンター		基本・実施設計	7月着工	8月竣工	11月開院	運営開始	

新がんセンターについては、平成 25 年 11 月の開院に向けて、現在、建設工事を行っている。
 (新がんセンターの整備の詳細については、がんセンターホームページ
<http://kcch.kanagawa-pho.jp/general/newcenter.html> に掲載しています。)

5 これまでの経緯

- 平成17年3月 「がんへの挑戦・10か年戦略」の中で、重粒子線治療装置の導入を目指す位置付け。
- 6月 「神奈川県重粒子線治療装置導入検討会」を設置。
- 平成19年1月 「がんへの挑戦・10か年戦略」第2ステージに向けたアピールの中で、重粒子線治療装置の導入を表明。
- 平成20年9月 「重粒子線治療装置整備基本構想策定委員会」を設置。
- 平成21年3月 「重粒子線治療装置整備基本構想」を策定。
- 4月 独立行政法人放射線医学総合研究所と「研究・医療協力に関する包括協定」を締結。
- 平成21年6月 「重粒子線治療装置ネットワーク会議」、「重粒子線治療施設整備検討委員会」を設置。
- 平成22年4月 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構が設立される。（以降、県立病院機構が重粒子線治療施設整備事業の実施主体となる。）
- 平成23年2月 「重粒子線治療装置総合評価審査委員会」を設置。群馬大学と協力協定を締結。

6 配置計画図・イメージパース

